

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年三月度 入選句 (投稿総数三千三百七十四句・小中学投句数二千八百四十六句)

特選

あたらしいともだちつくろゆきだるま 大垣市

新井田 琉維(小二)

作者は小学校一年生。雪が降った日、友だちといっしょに雪だるまを作ったのでしよう。雪だるまは一つ作ったのかな。その作り上げた雪だるまを見て「この雪だるまにもぼくのように友だちがあるといいな」と思ったのでしよう。作者はきつと友だちができ、楽しい学校生活を送っているのだと思われます。友だち大好きな作者の思いがあふれているほのぼのとした俳句です。

種蒔だ祖母の呟き聞く私 美濃加茂市 永原 愛海(高一)

春彼岸の頃は、「種蒔き・苗植え」の適した時期ですね。そんな時期を迎えて、作者のおばあさんは独り言のように「今日は種蒔きをしようか」と言われたのでしよう。その一瞬の呟くように言われた言葉を作者はきちつと聞き取り俳句にできたことが素晴らしいことです。「俳句は周りの情景をみて感じることも大切ですが、このように一瞬の音・色・情景などを捉えることも大切なことです。作者とおばあさんとの距離、関係もよく伝わるよい俳句です。

思い出を数えながら卒業へ岐阜市 田中 麻衣(高一)

作者は中学校三年生。目の前に卒業という記念すべき時を迎えようとしているのですね。卒業を前に今までのことを思い出すことは誰にでもあることですが、そのことをこのように俳句にしたことよって、作者の思い出はより鮮明になったのではないのでしょうか。今後もたくさん思い出が積み重ねられることを願っています。

秀逸

春風が花に命を吹きかける 美濃加茂市 河路 健吾(高一)

いつもより乙女になれるひな祭り 美濃加茂市 吉田 楓(高一)

まだ桜咲くなと願う別れ道 美濃加茂市 木股 紗弥(高一)

つまづいて見つけたつくしのせいくらべ 大垣市 中川 絢き(小三)

そらにとぶきよ大たこにはぼくがいる 大垣市 久野 宏太(小四)

春風におこされ森は大あくび 大垣市 杉原 ゆづき(小四)

出てきたよおしらせをするうぐいすが 大垣市 中村 爽音(小四)

つばめがね帰ってきたよ風つれて 大垣市 大橋 美空(小四)

にこにこの妹見てるよひな人形 大垣市 出井 陽(小六)

木々たちに葉っぱがともり山笑う 大垣市 那須 壮真(中二)

入選

ぼくのなをだれかつけてよゆきだるま 大垣市 外村 成希(小二)
 しもばしらカサカサパリパリうたってる 大垣市 久保田 華帆(小二)
 ソリすべりはやいぞかぜになつたみたい 大垣市 松岡 拓(小二)
 ゆきだるまゆきがふつたらまたあおう 大垣市 子やす ゆうこう(小二)
 しもの上ふめばきゅつきゅつおんがくたい 大垣市 子安 晴(小二)
 桜みて希望と不安がつのつてく 美濃加茂市 天野 姫来里(高一)
 道端にとつぜん春がやってくる 美濃加茂市 杉山 凜(高一)
 桜の木 3 年前を思いだす 美濃加茂市 鈴木 利奈子(高一)
 おひなさまかざったへやはたのしそう 大垣市 おぐら みりか(小二)
 ひなまつりにおじいさんがおさけのむ 大垣市 くにもと りこ(小二)

入選

ちらしずしひなにんぎょうもニコニコだ 大垣市 河合 柚奈(小二)
 たんぼぼがかぜにゆられてめをさます 大垣市 三日月 あんな(小三)
 風さんが春をもつてとんできた 大垣市 林 大翔(小三)
 しやぼん玉みんなをうつしてきえていく 大垣市 神村 咲風(小四)
 ひな祭り夜になるとおどりそう 大垣市 川瀬 景都(小四)
 かわいいないぬの足あとゆきのなか 大垣市 川瀬 雄大(小四)
 みかんの木お日さまいっぱいつけている 大垣市 坪内 哲平(小四)
 やすみのひきゅうこんうえてはるをまつ 大垣市 坂 伶治(小四)
 春一番負けじと僕は歩き出す 大垣市 井上 尚也(小六)
 春風と一緒にわかれやってくる 大垣市 内藤 雅貴(中二)

選者吟

卒業の歌ふるさとの風になる

祐子